

第5章 ヨシ松明祭りの現状

5-1 イベントとしての松明祭りの現状

5-1-1 大津市ヨシ松明祭りの概要

大津のヨシ松明祭りは、市民ヨシ刈り、地域のヨシ刈りと連動して行われている祭りで、刈り取ったヨシを利用して松明祭りとして平成3年からイベント化している。

「刈ってただゴミとして燃やすだけではもったいなかった、地域の人が松明にしてはどうかという提案を受けて今のような祭りになった当初はびわこ開き当日にはしていなかったが、火祭りは春の祭りにあうと思って2年後に今の形になった。」(C氏)

ヨシ刈りの際につくられた松明は、3月第2土曜びわこの日夜19時前後に点火をする。点火はヨシ刈りを実施したそれぞれの学区ごとに行う。松明祭り際には、炊き出しや楽器演奏など行い、参加してもらうための工夫をしている。

5-1-2 淡海環境保全財団のヨシ松明祭りの概要

ヨシ刈りボランティアで刈ったヨシで松明を作り、イベントにしている。以前は、近江八幡の西ノ湖にてヨシ焼き祭りを過去3年間実施していたが、季節の関係で、観客を呼ぶことができなかった。また場所も関係があり、その経験からまだ試行錯誤を繰り返しているが、ヨシ焼きからヨシ松明に形態を変えて、去年から大津のなぎさ公園でヨシ松明祭りを実施している。内容は、ヨシ松明祭りの前にバンド演奏があり、日没に松明の点火を観客にしてもらう。点火の際にはヨシの切れ端をもって隣の人と手を取り、ヨシと人との繋がりを作り“琵琶湖周航の歌”を歌う。

ヨシの切れ端を使う理由として「なかなか知らない人と手をつなぐことはしない」からである。また、ヨシを持つことで琵琶湖とヨシを認識してもらいたいという意図があるように考えられる。



図 5-1 湖岸に設置されたヨシ松明



図 5 - 2 ヨシ松明点火の様子

表 5-2 松明イベント（大津市・淡海環境保全財団）と松明祭りの比較

		大津市地域(北部) イ・ロ・ハ・ニ学区	大津市地域(南部) ホ・ヘ・ト学区	淡海環境保全財団	八幡祭り(松明祭り)
時	季節	春先:3月第2土曜 (びわこの日)	春先:3月第2土曜 (びわこの日)	秋:10月末の土曜 (去年は夏:8月末の土曜)	4月14日(15日は太鼓祭り) 各村の小祭りは4月第1日曜
	開催時間	イベント(18:00頃～20:00)	イベント(18:00～20:00)	15:30～18:00くらい(去年は 14:00～15:00、18:00～20: 00)	14日 8:30～22:00頃
	松明点火時間	19:00～19:30点火	19:00一斉点火	日没直前(17:00頃) (去 年19:30)	松明の奉火 20:00～22:00頃
	気候条件	厳しい(春先・夜・強風)	厳しい(春先・夜・強風)	若干厳しい(秋・夕方・風やや きつめ)	それほど厳しくない
人	参加人数	ヨシ刈り参加より若干少ない (ヨシ刈り:各地域約200人)	ヨシ刈りよりも倍くらい人数多 い(例:炊き出しのうどん等 1000～1500人分用意する)	去年は2000人、今年はその半 分くらい(季節、天候により変 動大きい)	?
	主な参加者	各学区民中心、一部観光客な ど	各学区民、一般客	湖岸周辺地域住民(必ずしも ヨシ刈りボランティアをした人 が参加しているわけではない)	13郷の町の人など地域住民
	一般客の扱い	観客にも参加者にもなる(一 般客が松明点火可能な地域 ある)	観客にも参加者にもなる(一 般客が松明点火可能な地域 ある)	観客にも参加者にもなる(一 般客が松明点火可能である)	観客
	子供	参加してもらう工夫として松明 点火を子供、観光客にしても もらう	参加してもらう工夫として松明 点火を子供にしてもらう	参加してもらう工夫として夜で はなく夕方から開催している	子供松明がある
	他の地域との交流	特にない	特にないが、対岸の学区で は、松明を同じ時間に燃やす	特にない	13の松明が同じ場所で燃やさ れる
場所	開催場所	湖岸(ヨシ刈り場所)	湖岸(ヨシ刈り場所・ヨシ刈り 場所から離れた人工湖岸)	人工湖岸 ・砂浜(松明立てるため) ・大津市のヨシ松明イベントの 関係で、松明の許可がありや すそうなところ	日牟礼八幡宮
	駅から会場の距離	離れている	離れている	離れている(会場・駐車場がな い)	離れている(駐車場ある)
金	運営金	ヨシ刈りも含めた市からの補 助金(一律30万円) ・自己負担10万円以上	ヨシ刈りも含めた市からの補 助金(一律30万円) ・自己負担10万円以上	県事業費	?
広報	呼びかけ方法	市の対応(市民ヨシ刈りの際 に参加賞の中に案内・広報お おつで松明祭りのお知らせを 入れている・新聞プレス)、地 域(回覧版等でまわす)	地域ヨシ刈り(回覧版、掲示板 で知らせる)	・財団の事業にかかわった人 →DM(1ヶ月前)・新聞プレス(1 週間前)、チラシ(2、3日前) 駅 置き用のチラシ(2週間前)	観光協会などが広報を行って いる(ポスターなど)
	参加してもらうための工夫	・炊き出し(汁物など) ・点火の割り当てなど事前に 決めておく(小学生など)	・炊き出し(うどんなど) ・点火の割り当てなど事前に 決めておく(小学生など) ・餅つき体験(小学生に参加呼 びかけ) ・ハンドベル演奏、オカリナ演 奏、太鼓演奏 ・稚魚放流	・バンド演奏、ヨシ笛演奏 ・一般の一人松明の火をつけ てもらう ・松明の周りで琵琶湖周航歌 を歌う ・イベントを含む1週間デパート でヨシの展示を行っている ・松明の写真をとってもらい、 フォトコンテストに応募してもら う	夜店が多くなっている
ヨシ	材料の調達	各学区のヨシ刈りで、ほぼ松 明分まかなえる(足りないところ は、一部雄琴のヨシをもら う) 雄 琴のヨシ地で業者が、各学区 の不足分のヨシをあらかじめ 刈っておく	ヨシ地が狭く、各学区のヨシで はほとんどまかなえないので、 松明用のヨシを雄琴からもらう	ヨシ刈りボランティア等で刈っ たヨシを使って松明を作ってお く	昔は、菜種殻やヨシなどは各 地域で刈り取りを行い、松明 に使用していた。今は、松明 の材料を購入しているところも ある。北之庄では、村の共有 地があって、そこを老人会 の人が刈って松明の材料にして いる
	刈り取り→松明作り→祭りの繋がり	ある(自ら刈り取ったヨシを使用 して松明にして、祭りを行っ ている)	ない(刈り取りを行っているが、 それは松明には使用できない ので、ほとんど雄琴のヨシを松 明に使っている、松明作りは 行っている)	ない(刈り取り・松明は、ボラン ティアが行っている 祭りはボランティアの季節とず れているので、ボランティア経 験者が祭りに参加をする確率 は低い)	地域で刈り取りをしているところ もあれば、そうでないところ もある。松明作りは祭りの当 日に行っている
	燃やした灰の利用	・砂浜にまぶしておく ・美化センターに取りに来てもら う・田畑の肥料にしている人が 持っていく	・美化センターに取りに来てもら う・田畑の肥料にしている人が 持っていく	・美化センターに取りに来てもら う	特に利用しない

5-2 大津市と淡海環境保全財団の松明イベントの比較

(1)「時」について

大津市は、春先の夜のイベントであるため、天候に左右される。まったく見学者がいな
いことはないが、寒い日や時雨れたりすると一部の人（役員など）の参加になりやすい。

松明祭り自体に関しては肯定的な意見が多い。

「冬の地域のイベントとして恒例になってきた」（堅田）

「楽しみながら琵琶湖のことを考えるのにいい機会だと思う」（下阪本）

ヨシ焼き祭りは本来、冬から春にかけて行うイベントだが、寒くて途中でお客さんが帰
ってしまうので、淡海環境保全財団では人が集まりやすい時期、場所を模索している。今年
は10月の末に行われ、去年は8月の末に行われた。

「西ノ湖のヨシ焼き祭りは平成8年～10年まで過去3回行われていたがヨシ焼き
は3月中旬に行われているので、昼間にイベントを行うなど夕方までお客さんをつな
げておいても、ヨシ焼きが始まる頃には帰ってしまうし、特に子供がもたない。」

「夜のイベントは夏がもっとも集まりやすい季節で、子供にも来てもらえるので、去年は
夏の終わりにイベントを行った。集客は、去年は2000人、今年は1000人と、夏の夜の
ほうが出やすいので多かった。」（財団）

イベントを行う季節によって、集客数の変動は大きい。夏は夜でも多くの人に参加する
のに対し、秋は夕方から始めていても、去年の半分の集客だった。

集客に気を使っている一方で、ヨシ松明祭りの季節感についても気にしている。

「夏にヨシ松明をするとヨシ刈りとのつながりがない。できるだけつながりを持たせよう
とは思うけど、（客が）来てくれないことにはイベントも意味ないので難しい。」

(2) 人について

大津市のヨシ松明祭りは各学区の実行委員会によって準備・実施されるので、関係者の
周りを中心に参加者が比較的安定している。

祭りの参加人数は、北部よりも南部の方が多い。南部は人口が多く、外部からの参加が
多いと考えられる。

祭りに参加してもらうための工夫として、北部は汁物など炊き出し中心であるが、南部
では、炊き出しのほかに楽器の演奏や、餅つき体験など、松明祭りの際に様々なイベント
をして盛り上げている。

淡海環境保全財団のイベント参加対象は、会場に駐車場がないことから近隣の人が対象
である。駐車場がないと参加対象範囲が狭くなる。

「電車を乗ってまでなかなか来てもらえない。以前行われていたヨシ焼き祭りは駐車可能
だったので広く広報していた。」

(3) 広報について

大津市のヨシ松明イベントでは、子供に参加してもらおう工夫として、小学生に松明の点火をしてもらう学区が多い。

「小学生はこんな日くらいじゃないと火使わしてもらえんから、喜んで…」

「ヨシ松明祭りは世代間の交流ができるいい機会なので…」

「(松明の作り方に関して)祭りの松明は自分たちで作ってたから、市から教えてもらわなくても知ってた。鎌の使い方や松明の作り方などを教えたりすることで交流することができる。」

ヨシ松明祭りは、世代間の交流の場として機能していると意識している人は多いが、学区内の祭りにしか関心がなく、地域間の交流はないように考えられる。

ヨシ松明を点火する時間は各地一定なのか聞いたところ、「他の地域のことは知らない、(点火は)バラバラだと思う」「他と時間を合わせているわけではない」という答えが返ってきたことから、大津市のヨシ松明祭りは大津市の地域全体を意識して松明を見ているのではなく、それぞれの学区のまとまりが強く学区内で完結しているように考えられる。

(4) 松明の材料と刈り取り・祭りの繋がりについて

大津市の北部地域(イ、ロ、ハ、二学区をさす)はヨシ地が広く、学区内のヨシ地で松明用のヨシがまかなえる。一方、南の地域(ホ、ヘ、ト学区をさす)は学区内のヨシ地が狭くて、松明が作れる十分な高さがないので各自のヨシはヨシ刈りの日に処分をして、雄琴から業者が刈ったヨシを分けてもらい、松明を作る。

北地域のヨシ松明祭りは、地元にあるヨシを使っただけの祭りであるから、ヨシに対する思い入れも強いように考えられる。(ヒアリング)

南の地域のヨシ松明イベントは、ヨシ刈りができる範囲に限られているので、自分達が刈ったヨシは松明にはほとんど使われていない。それゆえにヨシ刈りとヨシ松明イベントに関して北の地域のようなつながりがなく、それぞれが独立したイベントになっているように考えられる。

淡海環境保全財団のヨシ松明祭りは、ヨシ刈りを体験した人とヨシ松明を見る人が同一ではない。開催される季節がヨシ刈りの季節から続くものではないため、ヨシ刈りとヨシ松明祭りが完全に個々のイベントになっているように考えられる。

5-3 まとめ

淡海環境保全財団のヨシ刈り・およびヨシ松明イベントは、それぞれに対して参加対象者が違う。ヨシ松明イベントに関しては、参加対象が全て一般の人であるため、「いかに人を集めるか」が財団の一番重視していることであり、悩みでもある。そのために、ヨシ刈りとは切り離された、季節感が感じられないイベントになってしまった。環境啓発のため

に行っているイベントのインパクトが薄いように考えられる。

大津市のヨシ刈り・ヨシ松明イベントの一連の流れは、北部地域と南部地域では異なる。

北部地域は、ヨシ刈り中心であるのに対し、南部地域はヨシ松明イベントが中心である。極端なところでは、北地域のある学区は、学区が小さく人数が少ないのに対し、ヨシ原が多いので、市民と地域のヨシ刈りだけでは刈り取り作業が終わらない。そこで市が他の地域に配布する松明分の刈り取りを業者に委託している現状である。

単に「学区域のヨシ地が小さいのでその範囲でしかヨシ刈りをしない、松明は雄琴でもらう」というのであれば、北の地域のように自分達が刈ったヨシで松明を作るという一連の流れを持った松明祭りではない。一連の流れを持つためには、学区のヨシ刈りではなく、市内としてとらえたヨシ刈りに意識を移行する必要がある。ヨシ地の狭い地域の住民が自分達で刈り取りをした松明で祭りをするための一つの方法として、一方は地元のヨシ刈りを、もう一方は雄琴のヨシ地を借りて松明分を刈り取れば、ヨシ松明祭りの際も学区以外の交流が生まれ、視野が広がるのではないかと考える。